

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市長 墨江小学校 学校協議会

1 総括についての評価

総括シートの「本年度の自己評価結果の総括」については実態を反映している。

いじめや暴力行為については目標を達成しているものの、「情報活用能力」や体力の向上について課題に取り組む必要がある。不登校対策も継続し、児童・保護者の支援を行う。

2 年度目標ごとの評価

年度目標(1)安全・安心な教育の推進

全市共通目標

○学校で認知したいじめについては100%解消し、「いじめのない学校づくり」に対する保護者の肯定的な回答は伸び、目標に達している。暴力行為もなく、落ち着いた学校生活を送ることができている。

○昨年度の不登校児童は全員登校できるようになった。しかし、転入生3人を含め、新たに不登校になった児童が7名いる。今後も個々の児童に合う対策を行っていく。

学校園の年度目標

○校内アンケートにおいて、「自分にはよいところがある」「友だちの気持ちを考え、友だちを大切にしている」の2つの項目は、目標を達成したが、「学校に行くのが楽しい」については、わずかに前年度を下回った。

「自分から進んであいさつをしている」「将来への夢や目標を持っている」はコロナ禍前の水準にもどってきている。

年度目標(2)未来を切り拓くための学力・体力の向上

全市共通目標

○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」については、目標に達していないが、コロナ禍前の水準に近づいてきている。

○令和5年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、令和4年度の102.9%から101.2%に下がり、目標を達成することができなかった。

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の学習は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は、令和5年度は72.3%から66.5%に下がり、目標が達成できなかった。

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70.1%と65%を上回り、目標を達成した。

学校園の年度目標

○令和5年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、上記のとおり、目標を達成できなかった。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させることができず、目標を達成できなかった。

○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も減少し、目標を達成できなかった。

- 令和５年度の校内アンケートにおいて、「学校の勉強はわかりやすい」と「授業中、自分の意見を発表している」についての肯定的に回答する児童の割合は前年とほぼ同率であった。また、「学校に行くのが楽しい」は肯定的に回答がわずかに前年より下がり、目標を達成できなかった。
- 令和５年度の「全国体力・運動能力調査、運動習慣調査」における握力・長座体前屈は全国、大阪市を下回った。立ち幅とび男子は下回り、女子は上回った。
- 令和５年度の校内アンケートにおいて、「手洗い・うがいをし、自分の健康に気をつけている」の項目については、徐々に割合が落ちてきており、目標を達成できなかった。しかし、「給食を残さず食べている」の項目については、大きく割合が伸び、目標を達成した。

年度目標(1)：学びを支える教育環境の充実

全市共通目標

- 一人１台学習用端末で、個別最適な学びと協働的な学びに取り組み、運動会・遠足等の学校行事以外は毎日の活用を目指し、毎月目標を達成することができた。
- 児童生徒の心の状態や日々の状況を可視化するため、心の天気やアンケート機能を活用し、日々の状況の把握に努め、実施率が大きく伸びてきた。
- 教職員意識調査において、働き方改革について、肯定的な回答の割合を７０％以上にすることができた。
- ゆとりの日を設定し、週１回の定時退勤を奨励し、月４５時間、年間３６０時間を超える時間外勤務をする教職員の数はほぼ横ばいであった。
- 教員の資質向上に務めるため、研修会を実施し、公開授業を積極的に行った。

学校園の年度目標

- 校内アンケートにおいて「一人一人のよさを生かす教育活動に取り組んでいる」（保護者）について肯定的な回答の割合を前年度よりわずかに向上させ、目標を達成した。
- 校内アンケート「先生は、わたしたちの話をよく聞いてくれる」（児童）について肯定的な回答の割合はわずかに向上し、目標を達成した。
- 教職員意識調査において、働き方改革について、肯定的な回答の割合を７０％にすることができた。
- ゆとりの日の設定で、時間外勤務をする教職員の数はわずかに減らすことができず、横ばいだった。
- 専科制の拡大により、教員の週授業時間数を減らすとともに、学年内授業教科交換により、一人の教員が担当する教科を減らすことにより、一人一人の負担を軽減することができた。
- 教員の資質向上に務めるため、研修会を実施し、公開授業を積極的に行った。

3 今後の学校運営についての意見

- ・安全・安心な教育について、引き続き学級担任と管理職がすばやく連携し、児童の様子把握に努めてほしい。対策の継続を願う。
- ・児童の学力の全体的な底上げを目指し、今年度も対策を継続してほしい。
- ・運動能力に関しては、講堂やプールなどの施設が整い、具体的な方策を決め、目標達成を目指してほしい。
- ・学校生活への満足度の高さがアンケートから読み取れる。日頃の取り組みに感謝している。教職員の悪い噂は一切聞かない。今後も積極的に取り組みをしてほしい。